

■藤原明衡 文人官僚。当代一流ながら官位は不遇。公家社会衰退期の新人類の人物で「本朝文粹」「新猿楽記」を遺した。

ふじわらのあきひら

尾張国守罷免 989＝ 太宰大貳源等の娘を母に、藤原頼通の侍講つとめた文章博士藤原敦信の子に生まれる。

式家宇合の後裔であったため、栄華の圏外にあることを余儀なくされた受領の家柄のなか、

花山法皇事件 996＝ 7歳： 父の関係で、少年時から、藤原頼通に仕え、

・ ・ ・ ・ ・ 998＝ 9歳：

父の業を継ぎ漢学に精通し、和歌にも堪能であった。

和泉式部日記1004＝15歳： 文章院に入学。

・ ・ ・ ・ ・ 1007＝18歳：

源氏物語 ・ ・ 1014＝25歳： 穀倉院学問料を交付されて、文章得業生となり、

藤原道長摂政1016＝27歳：

道長太政大臣1017＝28歳：

三后鼎立 ・ ・ 1018＝29歳：

慶滋保胤を中心とした詩友クラブ(勸学会)運動のあとを継ぐ意志をもって、

・ ・ ・ ・ ・ 1025＝36歳： 累代の儒家でなく、官位も遅々として進まないなか、学問・修文・講經に精励、

藤原道長没 ・ 1027＝38歳：

平忠常の乱始1028＝39歳： この頃、檢非違使尉から、右京大夫となり、

在任中のこの頃、「新猿楽記」草稿が成ったと考えられる。

・ ・ ・ ・ ・ 1032＝43歳： ようやく(官吏登用試験の)対策に及第して、式家の儒流を確立するが、
左衛門権少尉に進み、

・ ・ ・ ・ ・ 1034＝45歳： 詩「月是為松花」。右衛門尉の時の詩「盃酒涯花菊」。勘解由次官。式部省内の試験で受験生に(友人らと)室外から答えを教える。

・ ・ ・ ・ ・ 1038＝49歳： 「桃花薰盃酒」詩。

・ ・ ・ ・ ・ 1041＝52歳： 文章生の試験に及第できなかった学生のために、異議の奏状を代筆する。

・ ・ ・ ・ ・ 1042＝53歳： 散位。詩「松竹不知秋」。***対策及第の労で、ようやく正五位下。この頃、「本朝秀句」編集、**

・ ・ ・ ・ ・ 1043＝54歳： この間、後に「本朝文粹」としてまとめられる諸古典の筆耕にいそしみ、

・ ・ ・ ・ ・ 1046＝57歳： 初冬書懷詩「燈燭積功漏幾深」。かろうじて式部少輔となり、左衛門尉を兼ねる。

・ ・ ・ ・ ・ 1048＝59歳： 「松風調雅琴」詩。

前九年の役始1051＝62歳： 「比叡山不斷經縁起」を記す。

末法思想始 ・ 1052＝63歳： ***この頃、風刺文学の一面をもつ「新猿楽記」が成立したと考えられる。**

以後、「本朝文粹」の編纂に本格的に取り組む、

天喜莊園整理1055＝66歳： 詩「花色映春酒」。この頃、「緋杉位浅窮秋涙」「筆耕年久漏皇恩」「鑑衡官冷緋杉旧七十齡傾雪婁寒」の句。

・ ・ ・ ・ ・ 1056＝67歳： 式部少輔の時、詩「勸醉是桃花」。

・ ・ ・ ・ ・ 1057＝68歳： 「続文粹」に「辯二閑塞一問策」がある。ようやく正五位上、出雲守。

・ ・ ・ ・ ・ 1058＝69歳： 17年据え置かれた正五位から従四位下に昇る。この頃、「明衡往来(雲州往来)」完成か。

更級日記 ・ 1059＝70歳： まだ式部少輔という卑位にとどまっていたことから、加階一級申請状を進奏、

・ ・ ・ ・ ・ 1060＝71歳： 「低鵬不知有大鵬」「学館多年携二鑑簡」の句あり。李部少卿七条亭文会に出席。***ようやく文章博士・大学頭・東宮学士を兼ね、勅喚により菊花宴に陪する。「本朝文粹」全14巻も完成したと思われる。**

・ ・ ・ ・ ・ 1061＝72歳： 藤原明衡の七条亭で、作文会が催される。詩「曲江花勸醉」。

前九年の役終1062＝73歳： 「松竹有清風」詩、正五位下行式部少輔とする。源頼義朝臣大般若経供養願文摘句、阿倍貞任・宗任追討の後の奉賓供養などを成したが、

治暦莊園整理1065＝76歳： 病氣となり、「黄卷只盈? ?薬病難療」の句を残し、

・ ・ ・ ・ ・ 1066＝77歳： 文章博士を辞任して、没した。